

平成 29 年度 【 学園研究費助成金 < A > 】 研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ シズ ヒゲマル
氏名 清水 秀丸

研究期間 平成 29 年度

研究課題名 木材加工道具の伝承・伝達に関する建築学的視点からの考察

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	清水 秀丸	生活科学部	講師
研究分担者	村上 心	生活科学部	教授
研究分担者	川野 紀江	生活科学部	講師

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究の目的は、現生人類が誕生した東アフリカから台湾を経て、日本本土まで移動・拡散した経路を建築学の視点から調査するものであり、拡散の際に大切に持参した木材加工道具に着目した。人類ほど、地球上すべての気候に適応できた動物は存在せず、それを可能とした大きな要因は「自らの手によって生み出された道具」であるが、道具を生産するための治具（木材加工道具）は拡散の際、極めて貴重品な生命維持装置であった。

本研究では、台湾から九州南部までの地域を結ぶ先島諸島や沖縄本島を対象とし、島に残る伝統的な木材加工治具を調査・分析することで、台湾－日本本土間の人類の移動経路について建築学的視点から考察した。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

沖縄本島に残る伝統的な木材加工治具を調査するため、沖縄林業の変遷に着目した。沖縄県は、その土壌や離島という地理的条件のため、太径材などの有用な木材が極めて貴重である。また、木材加工治具に用いる鉄も島内では採掘されない貴重品であった。これら貴重な 2 点について、沖縄林業の変遷を中心に文献調査する。また、漁を行う上で必要不可欠な木造漁船「サバニ」も調査する。

次に、先島諸島において伝統的な木造民家の現地調査を行う。伝統的な木造民家の軸組は、古来の木材加工治具で加工されており、建物の仕様も各島で少しずつ変化している。これら各島の伝統的な建物の調査と平行して、鍛冶屋、家具屋などからもヒアリング調査を行う。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

沖縄本島において、琉球王国の林業政策について文献調査を行った。沖縄県は、日本で唯一黒潮の南側に位置し、亜熱帯気候区分に属するなど動植物の生育には恵まれた環境であるが、離島という地理的要因や台風などの厳しい自然環境等に影響され、太径材が古来より貴重品として扱われていた。また、沖縄県にのみ生育する樹種も存在するなど、独特の森林形態を形成している。沖縄で最も古い約7000年前の土器が出土した読谷村の渡具知東原遺跡を見ると、当時の人々は木材を建築には用いず横穴住居で生活して様子がうかがい知れる。沖縄は自然の洞窟が多く住居としての自然条件が良かったため、燃料以外で木材を利用する必要が高く無かったようである。沖縄で森林資源が枯渇し始めたのは1500年頃よりで、尚真王の中央集権制度により、早急かつ大規模な町造りが行われたためである。伐木は「ウーヌ」(斧)と「ヤマハタナ」(山刀)のみで行われ、特に斧は独特の外観的特徴を有している。斧は「ハブ」と呼ばれる木製の部分と「ミー」と呼ばれる鉄製の差し込み型で構成され、「ハブ」は沖縄の鉄不足を考慮して、斧が木を切るために貴重な安定性を補うためのものと考えられる。

次に、先島諸島において伝統的な木造民家の現地調査と鍛冶屋、家具屋を対象としたヒアリング調査を実施した。与那国島では、沖縄本島の文献調査で明らかとなった「ウーヌ」の実物を確認することが出来たが、形状は文献と同じで有り、先島諸島で独特の形態とはならなかったようである。また、伝統的な木造民家も島によって多少の様式の違いも認められるが、基本的な構造は同じであった。しかしながら、鍛冶屋を対象としたヒアリング調査から、農具の鉄部分は島によって形状に違いが残っていることが確認された。

今回の調査を通じて、沖縄の木材加工治具は「ウーヌ」など独特の形状を有するものも存在することが確認できた。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

① 沖縄	② 木材加工治具	③ 林業	④ ウーヌ
⑤ ハブ	⑥ 先島諸島	⑦ 伝統的な木造民家	⑧ サバニ

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

本研究では、台湾から九州南部までの地域を結ぶ先島諸島や沖縄本島を対象とし、島に残る伝統的な木材加工治具を調査・分析した。得られた結果を以下に示す。

- ・沖縄の木材加工治具は「ウーヌ」(斧)など、本土と違い独特の形状を有するものがあり、それは鉄不足の考慮からきたと考えられる。
- ・沖縄本島と先島諸島では、木材加工治具の形状に大きな違いは見られない。
- ・先島諸島においては、農具の鉄部分で島による形状の違いが残る。

今回の研究では、沖縄本島、先島諸島のみ調査となったが、本研究は奄美群島などその他の離島の調査も必要となる。そのため、一般財団法人住総研の研究助成などに応募し、研究の継続を画策する。